

指定管理者評価シート

事業名	さけ科学館管理費	所管課(電話番号)	建設局みどりの推進部みどりの管理課 (211-2536)
-----	----------	-----------	---------------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市豊平川さけ科学館 ①本館 ②学習棟 ③実習棟	所在地	南区真駒内公園2-1
開設時期	①昭和59年10月2日 ②昭和61年11月11日 ③平成15年3月31日	延床面積	①579.2㎡ ②121.5㎡ ③220.61㎡
目的	豊平川におけるさけの回帰事業を通して生物や自然環境の保全に関する知識の普及啓発を行い、自然の豊かな都市環境の形成に寄与する。		
事業概要	さけのふ化並びに成長過程を観察する場の提供、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示、さけに関する学習の指導及び豊平川におけるさけの回帰に関する事業		
主要施設	本館、学習棟、実習棟		
2 指定管理者			
名称	(公財)札幌市公園緑化協会		
指定期間	平成28年4月1日～令和2年3月31日		
募集方法	公募 ----- 非公募の場合、その理由:		
指定単位	施設数: 1 ----- 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	さけのふ化及び成長過程を観察する場の提供に関する業務、豊平川におけるさけの回帰に関する業務、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示とさけに関する学習の指導に係る業務及び環境教育に資するイベントの計画実施業務		
3 評価単位	施設数: 1 ----- 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 平成30年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▼ 管理運営に係る基本方針の策定 当団体の運営方針である、公平・公開・効率・協働・環境の「5つのK」を基に、以下の①～⑤に示す「管理運営の基本方針」を策定した。 ① 平等・公平な利用の機会を確保し、さけ科学館の公共福祉増進の場としての利用効果を高める。 ② 関係法令・条例等を遵守し、さけ科学館の利用者や市民の声の反映に努め、開かれた管理運営による安全で安心、快適な利用環境を提供する。 ③ さけ科学館の資源・施設の長寿命化を念頭に置き、効率的な管理運営による経費削減を図り、安定した質の高いサービスを提供する。 ④ さけ科学館を環境教育のコミュニティ活動の拠点と位置付け、市民や団体、関係諸機関との連携・協働を推進し、集いの場としての魅力を高める。	来館者の意見・要望等や、実習・解説案内・博物館実習・職場体験等の依頼は、可能な限り受け入れに努め、公平・平等性については適正に確保することができた。 管理運営においては、関係法令等を厳守し、適切な利用環境を提供することができた。	A B C D 基本方針の実現に対して適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。 今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。

⑤ 札幌の水辺環境のシンボルであるサケを守り育てる活動を通じて、水辺環境の保全とともに、市民の環境を大切に思う心をはぐくむ。

体験放流やサケフェスタ等のイベントの際は、大学や行政関係等の研究機関、地域団体等と協働して行うことができた。
市環境局主催の、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークバスツアー2018に協力するなど、サケについて多くの市民に普及啓発ができた。
また、河川でのサケや淡水魚類調査の際にも積極的に市民に声を掛けて解説するなど、様々な場面での取組みを進めた。

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

年齢や障がいの程度、性別、主義・主張、思想・信条、民族や言語、社会的地位や身分の違い等によって、さけ科学館の平等利用が妨げられないよう、また、利用者に不公平感を抱かせることのないよう、徹底したスタッフ教育による管理運営を行った。

- ・障がい者の利用機会の確保に努めた。
- ・子育て層が快適にさけ科学館を利用できるよう、授乳希望者への案内・対応を実施した。開館中やイベントの際はさかな館の部屋を授乳室として利用いただくよう調整した。
- ・苦情・要望・提案等の申し立てによって差別が生じないよう、スタッフ教育の徹底に努めた。
- ・施設利用に関する情報収集を常に行ってスタッフ間で共有し、館内掲示板やホームページにより、必要な情報をリアルタイムで発信した。
- ・さけ科学館で実施するイベントやプログラムの情報、河川のサケ観察情報、施設利用情報など、利用者のニーズに的確に応える情報提供を行った。
- ・団体利用の連絡情報に基づいて管理作業のスケジュールを調整するとともに、利用者が過度に集中しないよう、利用日時の調整を図った。
- ・さけ科学館の管理者側の一時的な事情により、利用者が展示物の見学や体験等の機会を逃すことのないよう、きめ細かい情報発信を行った。
- ・参加者が限られる実習等については、不公平感の排除に努め、人気の実習については、公正な抽選により参加者を決めた。

研修・指導による全スタッフの教育により、平等・公平な利用機会を適正に確保した。また、館内利用やイベント開催時、苦情発生時等の対応については、特別扱いや差別とならないよう、適切な対応を心掛けた。広報さっぽろ・ホームページ・イベントチラシ、館内掲示等により、施設・イベント等の最新情報を広範囲に提供できるよう努めた。
外国人向けの表記については、利用の動向を見ながら、必要性の高い表示を追加するなどにより対応していきたい。また、対話の際は、スマートフォン翻訳アプリを活用したほか、病気等の緊急時に備えて、多言語救急問診シートを常備している。

平等利用の実現に向け、外国人利用者への対応等利用の動向を踏まえた、スタッフの意識の向上と適切な施設の提供を行っているものと評価します。引き続き丁寧・親切な対応を心がけ、要望・意見・苦情等には適正に対応してください。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

・HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、目的・目標を設定して環境活動に取り組んだ。
・光熱水の使用及びごみの排出について、それぞれ削減に努めた結果、前年度比で電気使用量は85.6%、LPガスは87.8%、水道は77.3%、一般ごみ排出量は93.7%となった。

電気・LPガス・水道の使用量、一般ごみの排出量は減少した。地震の影響で9,10月中は本館が臨時休館となったため、電気・水道の使用量が減少した。また復旧後本館展示ホール照明が仮設のLED照明となった影響も考えられる。LPガスは前年度使用量が多かったことをスタッフ全員に伝え、意識的に削減に取り組んだ結果、使用量が減少した。今後もスタッフ全員で改善・削減への取り組みに努めていきたい。

地震の影響もあるかと思いますが、昨年度と比較し、スタッフ全員の意識改善により状況が改善されたことを評価します。環境教育の普及という施設の目的を踏まえ、今後も環境に配慮した施設運営に努めてください。

・EMSの環境目標のひとつであるノー残業デーの超過勤務時間について、前年度実績を上回らないことを目標として取り組んだ。野外調査業務においては、河川状況等を見ながらスケジュールを設定する必要があるため、業務に支障が出ない範囲内で取り組むように努力した。
・環境に関する自覚教育を2回実施した。

全スタッフで「水曜日はノー残業デー」という意識を持ち、業務の効率化を図り、エネルギー使用量削減に繋がることを意識して、対応可能な範囲で今後も取り組んでいく。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

・統括責任者、統括責任者代理を配置した。
・年度当初に業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を確認した。
・当初の研修計画に基づき、職員研修を実施した。その他飼育技術等に関する外部の研修会・会議に参加し、さけ科学館に必要な知識・スキルの取得に努めた。今年度は、サケ・マス卵へのACL標識方法の技術研修を受け、豊平川産のオスザケを使用して受精させた卵に施標し、千歳川産由来と区別できるようにした。
・さけ科学館周辺に出没する可能性があるヒグマ等への対応として、例年に引き続き、ヒグマ・エゾシカ研修会に参加した。

管理運営体制を整え、問題なく適正に業務を遂行できた。研修等は予定通り実施し、来館者への対応や電話問合せ、飼育管理に役立てることができた。

適切な組織運営がなされ、職員の新たな知識・スキルの取得に努めていること及び、周辺環境を踏まえた研修の参加等を評価します。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

・来館者の快適性の向上、及びスタッフを含めた安全性の確保のため、危険予測(KY)・ヒヤリハット収集票を作成し、スタッフ全員で情報を共有し、作業手順の改善に役立て、事故防止に努めた。
 ・草刈り機・除雪機等の作業機械を使用する際は、研修以外にもスタッフ全員に対して口頭により指導を実施するなど、安全確保の取組みを適切に実施した。

さけ科学館の利用者やスタッフのケガを伴う事故は発生しなかった。
 他公園を含めた業務災害の発生に対しては、当団体全体で共有し、迅速かつ適切に再発防止措置を講じることができた。

スタッフの意識向上に努め、団体全体で安全性の確保に向け取り組んでいることを評価します。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

定期清掃、日常清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、自動ドア保守点検、温風暖房機保守点検、建築物法定点検、危険木処理、駐車場・園路除雪の業務については第三者に委託し、仕様書の通り適切に実施した。

施設・設備等の委託業務は、仕様書の通り適切に実施した。

現状に即した管理方法を検討しつつ、引き続き仕様書に基づき適切な実施に努めてください。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
運営協議会 3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・管理業務の実施状況について ・管理運営上の問題点、改善点について ・利用者の声について ・自主事業の実施状況について ・設備の状況について ・非公募の検討について ・修繕計画について
<協議会メンバー> 札幌市みどりの管理課 係長・担当職員 札幌市公園緑化協会事務局長・さけ科学館主任(マネージャー)・主任(サブマネージャー)	

運営協議会だけでなく、日頃から所管部署と連絡を密に取るようにした。
 北海道開発局や水産研究・教育機構北海道区水産研究所(以下、「北水研」)等とも河川状況やサケ・水生生物の分布状況等の情報共有に努めた。

運営上の問題点等も把握しつつ、要求水準どおり、指定管理者主催により運営協議会が行われ、日頃の連絡も密に行われているものと評価します。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務や自主事業等、指定管理施設ごとに区分しており、現金等の取扱いについては点検、調査を行っている。事務局経理事務担当者による現金出納簿の確認、月末締め現金出納簿と売上金口座入金状況の確認を随時行っている。
- ▼ 団体の規定に基づき、現金や金券類、預金通帳等の施錠管理や帳簿類の内部監査を年2回実施しているほか、公認会計士2名による外部監査を導入している。
- ▼ 現金等の取扱いに関しては、現金取扱規定を整備しており、管理体制の強化及び不祥事防止の取組みを行っている。

札幌市の検査・監査には適切に対応した。また、改善が必要な事項等については、各公園・施設のマネージャーが集まる営業会議で都度確認し、公園・施設でも周知徹底を図った。
 不正行為や事故発生の未然防止のため、複数名による現金等の確認を徹底した。
 不正経理等の事故は発生していない。

複数人による現金等の確認など、適切な管理体制が取られており、事故等なく管理を行っていることを評価します。今後も不正行為や事故を防止し、適正な資金管理に努めてください。

	<p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>さけ科学館の施設やサービス、維持管理についての苦情等の情報については、苦情等対応報告票に記録して組織で共有する手順を整えている。 30年度の苦情は0件であった。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ アンケートは、来館者及びイベント等の参加者を対象に実施し、分析結果を札幌市へ報告するとともに、職員間で供覧して共有し、改善点等を次回の事業や管理運営に反映させた。 ▼ 施設の管理運営についての自己チェック・評価を実施し、外部の有識者等からの意見も参考にして改善に取り組んだ。 	<p>利用者から感謝やおほめの言葉をいただくことが多く、スタッフやボランティアの励みになった。 要望・意見・苦情等に関しては、改善の機会ととらえ、今後も計画した手順に従い、適切に対応する。</p> <p>アンケートでは満足度で高い評価が得られたが、自由記述の意見・要望についても改善の材料とした。 指定管理の計画・提案内容の履行状況を定期的にチェックすることで、目標に向けた管理運営を適切に遂行できた。</p>	<p>苦情が発生していなく、対応の手順を整えていることを評価します。今後も要望・意見・苦情等に対しては、計画した手順に従い、適切に対応を行って下さい。</p> <p>記録・モニタリング・事業報告等は適切に行われていると評価します。</p>								
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ スタッフの雇用に関して、労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、健康保険法・厚生年金保険法、雇用保険法、労働契約法、男女雇用機会均等法、次世代育成支援対策推進法、女性活躍推進法、育児休業・介護休業等に関する法律、労働保険の保険料の徴収等に関する法律、その他関連する法令等に基づき、主として以下のような届出・対応等を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・全てのスタッフに対し、北海道最低賃金835円（平成30年10月1日発効、発行前までは810円）以上の時給を支給した。 ・施設で働く職員に対し、時間外労働・休日労働及び深夜残業をさせた場合、それぞれ法定割合以上の割増賃金を支払った。 ・就業規則・要綱の改正を行い、札幌中央労働基準監督署に適切に届け出ている。 ・全スタッフの就業時間や休日等について、労働基準法を遵守した。 ・スタッフに時間外労働又は休日労働をさせるにあたり、書面による労使協定（36協定）により必要な定めをし、札幌中央労働基準監督署に届け出た。 ・全てのスタッフを労災保険適用とし、条件を満たすスタッフを雇用保険に加入させた。 ・労働保険料等算定基礎賃金等の報告を北海道労働局へ提出し、労働保険料を納付した。 ・スタッフの勤務形態、家族状況等に応じて健康保険・年金保険資格を取得するよう、適切に届け出を行った。 ・年1回の定期健康診断及びストレスチェックを実施した。 	<p>さけ科学館と本部事務局との連絡調整を密にするとともに、関係機関への必要な届出を迅速かつ確実に行うなど、労働関係法令を遵守し、すべての関係手続きについて適切に対応できた。 当団体での労働災害発生ゼロを目指して、毎朝のKY活動、ヒヤリハット事例の共有、安全大会の開催、安全講習の実施等に取り組んだ。事故が発生した際には、安全衛生委員会において、原因検証と再発防止の検討を実施した。 安全な職場環境の実現と、スタッフの雇用環境の向上を進めるなかで、市民サービスの向上につなげることができた。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>女性の活躍推進に係る取組の実施など、法令を順守し、雇用環境の維持向上に努めているものと評価します。特に労働災害の防止についての活動は今後も継続して行ってください。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>女性の活躍推進に係る取組の実施など、法令を順守し、雇用環境の維持向上に努めているものと評価します。特に労働災害の防止についての活動は今後も継続して行ってください。</p>			
A	B	C	D								
<p>女性の活躍推進に係る取組の実施など、法令を順守し、雇用環境の維持向上に努めているものと評価します。特に労働災害の防止についての活動は今後も継続して行ってください。</p>											

	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間雇用管理者を選任し、北海道労働局へ届け出た。 ・有期雇用契約者のうち、無期転換申込権が発生した者に対して周知し、希望の申し込みを随時受け付けた。 ・次世代法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定し、届出、公開、周知した。 ▼ 安全衛生委員会を設置し、毎月1回、各公園・施設のマネージャーが出席して委員会を開催し、職場の安全確保及び健康障害の防止に係る議題について検討し、結果をスタッフに周知して、健全な職場環境の実現に努めた。 ▼ 維持管理作業従事者を対象に、作業における安全確保や機械の取扱いに関する講習を実施した。 ▼ ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児休業等の取得奨励、職場内コミュニケーションの活性化、有給休暇取得の奨励、ノー残業デーの設定などの取組みを行った。 ▼ 公的資格の取得支援、待遇や安全・技術等に関する内部研修の実施、優秀なスタッフや高齢者の継続雇用など、雇用環境の整備により、市民サービスの向上等に結びつく取組みを行った。 ▼ 第三者への委託業務について、受託者に当該業務従事者の労働環境に関わる情報提供を求めた。 ▼ 女性活躍推進法に基づく認定制度「えるぼし」において、女性の活躍推進に関する状況等が優良な団体として「認定段階3」を受けた。 						
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理業務の実施時には、施設の利用の支障にならないよう配慮するとともに、利用者に対し十分に案内するよう努めた。 ・さけ科学館における拾得物の取扱いは、遺失物法に基づき適正に行った。 ・真駒内公園駐車場と本館の玄関前にさけ科学館の電話番号を表示し、緊急時に利用者が通報しやすい環境を整えた。 ・緊急時のスタッフ間の連絡手段として、携帯電話による迅速な連絡が可能な体制を取った。 ・管理業務の実施に際して、当団体の過失等により札幌市または第三者等に損害を与えた場合に備え、仕様に適合した損害賠償責任保険に加入した。 	<p>敷地内での作業の際は、声かけや周囲に気を配り、作業車両使用時には二人一組で対応するなど、利用者への安全配慮を最優先として作業を実施した。</p> <p>草刈り機や除雪機等作業機械の使用については、シーズン前に安全教育を実施し、報道等で事故があった際は、その都度注意喚起した。</p> <p>拾得物の取扱いは、遺失物法、当協会の規定、及び南警察署の指示に基づき、適正に対応した。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%; background-color: red; color: white;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table> <p>利用者の安全確保に努め、緊急時の体制を整えており、適切に管理されているものと評価します。今後も声かけや作業車両の複数人対応等を継続してください。</p> <p>なお、市民サービス向上の一環として、より一層美観に配慮した維持管理を行うことを心掛けてください。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、駐車場・園路の除雪については、第三者への委託により適切に実施し、仕様書の水準に達した。なお、一部日常清掃はスタッフで行い、経費削減に努めた。 	<p>年式の古い重要な設備等については、札幌市と適切に情報共有した上で、定期点検のほか日常的な自主点検・記録により、突発的なトラブルの予防に努めた。軽微な修繕等は直営または当協会他公園の協力に対応し、経費削減につなげた。今後も設備の知識を深めて経費削減、応急処置ができるように努める。</p>	<p>軽微な修繕や日常清掃について経費削減に努めている点を評価します。引き続き設備の日常点検により設備の状況把握に努めてください。</p>
<p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全・安心を最優先し、危機管理対策・対応については「予防・未然防止対策」、「初動処置・対応」、「再発防止・対応改善対策」の3段階に区分し、各段階において対策を行った。 ・年度の防災計画を策定し、4月に防災訓練を実施した。 ・体験放流及びさけフェスタにおいて、露店等開設届を作成し、自己点検を適正に実施した。 ・胆振東部地震の際は、地震発生後、速やかに被害状況を確認した上で札幌市所管課と対応について協議し、安全が確保されるまで施設を臨時休館とした。 	<p>火災・地震・強風への対応訓練を4月に実施し、南消防署に実施計画・結果を提出した。災害の際に起こりうる事態と対応についてはスタッフ全員で話し合い、情報を共有した。今回の地震の際は、危険な箇所等を見極め、素早い対応をとることができた。長時間の停電となったが、非常用発電機の動作・飼育水の給水状況も確認し、停電復旧まで飼育生物を問題なく生かすことができた。台風による落ち枝・倒木等の被害について、今回は隣接する河川敷地でも発生したため、管理範囲外ではあるが安全確保のため応急処置対応を行った。</p>	<p>生き物を扱う業務であることを踏まえた迅速な災害対応が行われたことを評価します。今後は、今回の経験を勘案したより適切な対応に努めてください。</p>

(4)事業の計画・実施業務			A B C D
		<p>▽ さけ科学館における普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーモンスクール放流式64人(計画60人) ・わくわく体験(エサやり・サケタッチ) 23回1,258人(計画1,000人) ・サケ稚魚体験放流 4回2,844人(計画3,000人) ・サケのいない時期のサケ教室 8回140人(計画130人) ・知る・みる・カニさん・ザリガニさん60人(計画60人) ・さかなウォッチング 3回44人(計画60人) ・公開さかな調査 36人(計画100人) ・さっぽろサケフェスタ2018 1,253人(計画3,000人) ・サケの採卵実習・受精体験 5回113人(計画100人) ・サーモンウォッチング・観察会 4回422人(計画250人) ・札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム 183人(計画100人) <p>計6,417人(計画7,800人) ※一部実習は事前申込み制とし、応募者多数の場合は抽選で参加者を決定した。</p> <p>▽ 生物に関する相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の飼育・生態などに関する質問・問合せ等は計84件あり、それぞれ適切に回答したほか、必要に応じて資料の送付・書籍・専門家の紹介等を行った。 	<p>30年度は地震の影響で、一時施設が全面閉鎖となったが、規模を縮小して可能な範囲でサケフェスタを開催し、多くの市民に喜んでいただけた。体験放流は連日天候に恵まれず、参加者数が伸びなかった。アンケートなど参加者の意見を採り入れてイベント内容の改善・充実に取り組んだ結果、参加者の満足度は非常に高かった。1月に開催した札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラムでは、多くの市民に豊平川に遡上するサケの現状と野生サケの重要性を知ってもらうことができた。</p> <p>サケのほか、水辺の生き物全般にわたって質問を受け、適切な回答を心掛けた。今後も関連資料や書籍等を収集し、また、生物に関する研修会や会議にも可能な限り出席して、分かりやすく回答ができるように努める。</p>

<p>▽ さけ科学館に関する市民の自主活動及び交流の支援業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さけ科学館ボランティアの会(登録者数約20名)では、イベント・飼育補助、施設管理補助等の活動を行った。 ・民間の活動団体である「真駒内川水辺の楽校」「自然ウォッチングセンター」等の活動に積極的に協力した。 ・市民や行政・大学の研究者・さけ科学館等の有志による「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」の活動として、豊平川の野生サケを優先的に保全し、サケやその他魚類の生息環境の改善等を検討し、サケ遡上数が大きく減らないよう放流数をコントロールする「順応的管理」を導入し、豊平川に回帰するサケ親魚のモニタリング調査、サケ稚魚降下調査等を共同で実施した。 	<p>ボランティア活動を積極的にサポートし、体験放流・サケフェスタ・水辺の生き物観察会等において活躍していただいた。</p> <p>市民フォーラムは、札幌ワイルドサーモンプロジェクトと共催で開催した。</p> <p>地域の団体等からの協力依頼や連携行事に対しては、今後も可能な限り協力するように努める。</p>	<p>地域の住民や団体と良好な関係を構築・維持しており、ボランティアの活躍の場を提供しているものと評価します。</p>
<p>▽ さけ科学館の業務に関する情報収集及び提供業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北水研などの研究機関が発行する文献や、ホームページで公表される情報を収集してスタッフで供覧し、展示・解説案内に反映させた。 ・さけ科学館研究報告として、豊平川におけるサケの産卵環境改善の取り組みと、降下サケ稚魚の捕獲調査の事例をまとめ、ホームページで公開した。 ・業務上有益な研修会・会議等には可能な限り出席するように努めた。 ・生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク会議(5/10) ・北海道サケ会議(5/26) ・北海道区水産研究所リサーチセミナー(6/15、8/17) ・豊平川河畔林勉強会(7/31、2/1) ・平成30年度さけます報告会(8/7) ・フィールド実践型環境ゼミナール(8/3～5) ・道総研さけます・内水面試験場、サケ・マス卵へのACL標識方法研修(11/1) ・応用生態工学会札幌セミナー(11/13) ・全道漁協漁場環境保全研修会(2/13) ・平成30年度豊平川におけるシロザケ・サクラマス遡上行動調査報告会(3/7) 	<p>文献等の情報共有により、利用者への適切な案内・回答につなげることができた。</p> <p>北大や北海道区水産研究所等で開催された会議・セミナー等に積極的に参加し、得られた最新の研究成果等は、利用者への解説に役立てることができた。</p>	<p>外部の研究成果等の情報を積極的に収集し、業務に係る新たな知見を得ることで利用者サービスの向上につなげているものと評価します。</p>

(5)施設利用に関する業務	<p>▽ 利用件数等</p> <p>平成30年度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">入館者数</td> <td style="text-align: center;">46,748</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">解説案内・学習対応</td> <td style="text-align: center;">76 件</td> <td style="text-align: center;">3,405 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">外部依頼の実習等対応</td> <td style="text-align: center;">40 件</td> <td style="text-align: center;">2,089 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ボランティア活動(のべ)</td> <td style="text-align: center;">112 日</td> <td style="text-align: center;">176 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">図書貸出</td> <td style="text-align: center;">25 件</td> <td style="text-align: center;">64 冊</td> </tr> </table> <p>平成29年度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">入館者数</td> <td style="text-align: center;">60,129</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">解説案内・学習対応</td> <td style="text-align: center;">69 件</td> <td style="text-align: center;">2,832 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">外部依頼の実習等対応</td> <td style="text-align: center;">58 件</td> <td style="text-align: center;">2,719 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ボランティア活動(のべ)</td> <td style="text-align: center;">174 日</td> <td style="text-align: center;">374 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">図書貸出</td> <td style="text-align: center;">34 件</td> <td style="text-align: center;">91 冊</td> </tr> </table> <p>▽ 利用促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケ稚魚体験放流・さっぽろサケフェスタの際は、市広報以外にも、ポスター・チラシを作成・印刷し、近隣の幼稚園・市内小学校等に配布した。また、マスコミ取材の際にイベントの告知を入れてもらうよう依頼するなど、利用促進に繋がるように努めた。 ・講師や実習、展示などの依頼については、可能な限り受け入れ、さけ科学館のPRに努めた。 	入館者数	46,748	人	解説案内・学習対応	76 件	3,405 人	外部依頼の実習等対応	40 件	2,089 人	ボランティア活動(のべ)	112 日	176 人	図書貸出	25 件	64 冊	入館者数	60,129	人	解説案内・学習対応	69 件	2,832 人	外部依頼の実習等対応	58 件	2,719 人	ボランティア活動(のべ)	174 日	374 人	図書貸出	34 件	91 冊	<p>入館者数は、胆振東部地震の影響により、本館が2ヶ月近く臨時休館となったため、団体利用者のキャンセルも多く、前年より入館者数は減少した。利用者に満足していただけるよう、スタッフ全員で丁寧な説明・解説を心掛けた。体験放流やサケフェスタはリピーターの参加者が多いが、天候・地震の影響により来場者が減少した。屋外のイベントについては、雨天時も楽しめるように内容を考えて実施することができた。</p> <p>市広報・マスコミ等を利用して、さけ科学館のPRに努めた。また、外部依頼の実習・展示協力等は、PRにも繋がるため、可能な限り受け入れるようにした。引き続き利用促進に取り組んでいく。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center; background-color: red;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> </table> <p>地震や天候の影響により入館者数は減っているが、「解説案内・学習対応」については人数が増えており、できることを適正に実施した点を評価します。施設の構造上天候の影響を受けやすいですが、更なるリピーターの増加と新規利用者獲得に向けて引き続き工夫に努めてください。</p> <p>市の広報以外のマスコミやチラシ等を利用した積極的な周知を評価します。今後もさけ科学館の知名度の向上と利用促進のためPRに努めてください。</p>	A	B	C	D
	入館者数	46,748	人																																		
解説案内・学習対応	76 件	3,405 人																																			
外部依頼の実習等対応	40 件	2,089 人																																			
ボランティア活動(のべ)	112 日	176 人																																			
図書貸出	25 件	64 冊																																			
入館者数	60,129	人																																			
解説案内・学習対応	69 件	2,832 人																																			
外部依頼の実習等対応	58 件	2,719 人																																			
ボランティア活動(のべ)	174 日	374 人																																			
図書貸出	34 件	91 冊																																			
A	B	C	D																																		
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報は、さけ科学館ホームページや館内掲示のほか、市広報・マスコミやその他の関係団体などを通じて提供し、PRに努めた。 ・CISEネットワークでの展示や環境広場さっぽろなどでは、生体展示を行うだけでなく、さけ科学館の活動等を紹介、PR活動を行った。 ・サケ稚魚体験放流やサケフェスタ等の大きなイベントの際は、事前にチラシ・ポスターを作成し、配布・宣伝した。 ・ホームページは随時手直しをして利用し易さを改善し、サケ観察情報など最新情報の掲載に努めた。 ・30年度はホームページに48,636件のアクセスがあった。 	<p>イベント情報については、マスコミの別件取材の際にも掲載依頼するなど、積極的に広報を実施し、利用者増に努めた。また、館外でのイベント等では、さけ科学館のPR活動を積極的に行った。ホームページでは、最新情報の発信に努め、利用者が情報を得る手段としての利用増に繋げるよう努力した。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center; background-color: red;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> </table> <p>ホームページでの最新情報の発信に努めている点を評価します。今後も情報提供の場を広げ、新規利用者の増加につなげてください。</p>	A	B	C	D																														
A	B	C	D																																		

	<p>▽ 引継ぎ業務 前回から継続指定を受けており、引継ぎ業務はない。</p>															
2 自主事業その他																
<p>▽ 自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売店営業 ・イベント物販(体験放流、サケフェスタ)、自販機設置 ・受託業務(調査業務・技術指導の業務) 6件 ・自主事業申請イベント開催数 14件(その他のイベント等は本来業務) ・外部に対する講師派遣、展示協力、調査研究協力等対応 117件 <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期清掃などの第三者委託業務は、市内企業に発注した。 ・売店商品の一部は、「元気ショップ いこ〜る」から仕入れた商品を販売した。 	<p>調査等の受託業務は、本来業務に支障のない範囲で行い、得られた知見は教育・解説活動等に役立てた。</p> <p>売店では、就労支援施設等で製作されたサケにちなむ小物などを販売し、好評を得られた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>本来業務以外にも水生生物について調査研究や教育活動に力を入れ、施設の価値を高めている点について評価します。</p> <p>委託業務、物品購入につき、市内企業の優先活用や福祉施策への配慮が行われているものと評価します。</p>	A	B	C	D										
A	B	C	D													
3 利用者の満足度																
<p>▽ 利用者アンケートの結果</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="248 925 355 1032">実施方法</td> <td data-bbox="355 925 983 1032">館内にアンケートボックスを設置した。また、サケフェスタ・体験放流等のイベントで、対面式アンケートを実施した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 1032 355 1207">結果概要</td> <td data-bbox="355 1032 983 1207"> <ul style="list-style-type: none"> ・総合満足度:84.5%(回答数297件) ・接遇に対する満足度:88.2%(回答数296件) ・イベントに対する満足度:97.3%(回答数1,203件) 各満足度の札幌市要求水準は、総合満足度70%、接遇満足度80%、イベント満足度80% </td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 1207 355 1731">利用者からの意見・要望とその対応</td> <td data-bbox="355 1207 983 1731"> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示しているSWSPの1年、じっくり勉強させていただきました。そんな活動があることを知らなかったし、サケを観察する1年間の活動に興味がありました。すぐその川にいるサケが海に行くのかと思うと感動的です。 ・スタッフの皆さんが良い対応をしてくれてありがとうございました。 ・案内がていねいでした。ありがとうございました。 ・イベント(サケタッチプール)が楽しかった。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も来館者への対応は丁寧な言葉遣い、分かりやすい説明に気をつけ、来館者が満足できるように心掛ける。 </td> </tr> </table>	実施方法	館内にアンケートボックスを設置した。また、サケフェスタ・体験放流等のイベントで、対面式アンケートを実施した。	結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・総合満足度:84.5%(回答数297件) ・接遇に対する満足度:88.2%(回答数296件) ・イベントに対する満足度:97.3%(回答数1,203件) 各満足度の札幌市要求水準は、総合満足度70%、接遇満足度80%、イベント満足度80%	利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示しているSWSPの1年、じっくり勉強させていただきました。そんな活動があることを知らなかったし、サケを観察する1年間の活動に興味がありました。すぐその川にいるサケが海に行くのかと思うと感動的です。 ・スタッフの皆さんが良い対応をしてくれてありがとうございました。 ・案内がていねいでした。ありがとうございました。 ・イベント(サケタッチプール)が楽しかった。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も来館者への対応は丁寧な言葉遣い、分かりやすい説明に気をつけ、来館者が満足できるように心掛ける。 	<p>アンケート結果では、すべての満足度において札幌市要求水準を上回った。特にイベント満足度は1,200件以上の回答に対して、非常に高い満足度となった。今後も新しい企画の検討のほか、現行イベントの充実も図り、来館者・イベント参加者を飽きさせないように努力する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>満足度が高く、要求水準を上回っていることを評価します。また、「説明が勉強になった」や「楽しかった」との意見が複数見られ、スタッフが豊富な知識を持ち、親切な対応をしているものと評価します。</p>	A	B	C	D				
実施方法	館内にアンケートボックスを設置した。また、サケフェスタ・体験放流等のイベントで、対面式アンケートを実施した。															
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・総合満足度:84.5%(回答数297件) ・接遇に対する満足度:88.2%(回答数296件) ・イベントに対する満足度:97.3%(回答数1,203件) 各満足度の札幌市要求水準は、総合満足度70%、接遇満足度80%、イベント満足度80%															
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示しているSWSPの1年、じっくり勉強させていただきました。そんな活動があることを知らなかったし、サケを観察する1年間の活動に興味がありました。すぐその川にいるサケが海に行くのかと思うと感動的です。 ・スタッフの皆さんが良い対応をしてくれてありがとうございました。 ・案内がていねいでした。ありがとうございました。 ・イベント(サケタッチプール)が楽しかった。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も来館者への対応は丁寧な言葉遣い、分かりやすい説明に気をつけ、来館者が満足できるように心掛ける。 															
A	B	C	D													

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	計画	決算	差
収入	38,781	40,807	2,026
指定管理業務収入	37,231	37,492	261
指定管理費	37,231	37,492	261
利用料金	0	0	0
その他	0	0	0
自主事業収入	1,550	3,315	1,765
支出	38,781	42,502	3,721
指定管理業務支出	38,209	41,014	2,805
自主事業支出	572	1,488	916
収入-支出	0	▲ 1,695	▲ 1,695
利益還元	0	0	0
法人税等	0	64	▲ 64
純利益	0	▲ 1,759	▲ 1,759

▽ 説明

- ・自主事業では、売店でサケや水辺の生き物にちなむ小物・書籍等のほか、体験用のエサ2種類(イトウ用、サケ科魚類用)を販売した。
- ・自主事業収入のうち、外部から魚類調査や技術指導等の業務を受けた収入の合計が1519千円となった。外部から都度、業務の打診があり、本来業務との調整により受託可能か判断するため、予算には計上していない。
- ・支出では、電気・ガス・水道などの光熱水費について日頃から節約に努めたほか、暖房の設定温度を支障のない範囲で下げるとともに、使用時間を記録して節約意識を高めた。また、軽微な修繕は直営で行うようにした。
- ・以上のとおり受託業務による収入増、経費削減に努めたが、全体で1,759千円のマイナスとなった。

受託業務は、札幌市内の河川におけるサケ等の生態調査をはじめ、生物環境改善・普及啓発業務など、さけ科学館職員の経験・知識を活用して対応できる業務を受けた。今後も本来業務に支障をきたさない範囲で積極的に受託し、差益を施設運営費に充当すること、業務で得られた知見を利用者に還元することにより、教育普及に役立てていく。

エサやりは、小さい子どもでも簡単にできる体験のため、無料体験のない日でもエサやりができるよう販売しており、利用者に大変好評であった。今後も販売を継続し、収支と利用者サービスの向上に努めていく。

A	B	C	D

受託業務で収益を得、施設運営費に充当しつつ、得た知識を教育普及に役立てていることを評価します。今後も可能な限り経費の削減に努め、利用者ニーズに沿う収支バランスに努めてください。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

▼当団体の財務状況等は、平成30年度、赤字決算になる見込みはなく、運営安定化積立資産の留保金もあるため、安定経営能力に問題はない。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
- ▼ 情報公開請求はなかった。
- ▼ 当施設の管理等に係るオンブズマンの現地調査はなかった。
- ▼ 施設使用者に対する告知として、暴力団活動や暴力団の資金源となる活動に施設を使用できない旨の文書を管理事務所に掲示した。
- ▼ 物品購入や業務の委託等に際して、暴力団員や暴力団関係事業者を相手方としないよう徹底した。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p><利用状況> 年度の前半は、体験放流のあるゴールデンウィーク期間中を含めて全般に天候に恵まれず、個人の来館者が伸びなかった。一報で市内幼稚園・小・中学校等の学校を含めた団体利用は多くあり、解説活動を行うなど対応した。 8月から9月に掛けて、4大学から計7名の博物館実習生を受け入れたほか、8月には職場体験の高校生2名も受け入れ、館の業務全般を実際に行ってもらい、サケの生態等についても指導することができた。 9月6日の地震による影響で臨時休館が続き、入館者数は減少した。団体からの予約受付分については、早急に施設の状況を伝えるなど調整対応し、ご理解頂けた。一般利用者に対しては、ホームページや真駒内公園内各所を含む屋外掲示板で随時、最新の状況を周知した。施設の全面利用が可能となった11月には入館者が例年以上に多く、開館に合わせての学校等の団体利用も多かった。サケ遡上シーズン終盤ではあったが、サケ親魚・発眼卵の展示を見ていただくことができ、積極的に声掛けをして、解説活動に努めた。 1月29日から地下観察室で展示したサケ稚魚の群泳は、例年大変人気があり、迫力ある群れで泳ぐサケ稚魚の姿は、来館者から好評を得る事ができた。見学中の来館者には積極的に声掛けを実施し、質問等に対して丁寧に解説した。 今年度は災害による休館があったが、来館者に満足いただけるよう取り組んだことについては、アンケートの結果を見ても一定の水準で達成できたと考えられる。</p> <p><教育普及> 体験実習等の際は、ただ楽しむだけではなく、サケや水辺の生き物、環境について何かしら学んでいただくことを目標に取り組んだ。 エサやり体験では、魚種によって食べ方が違うことを解説して観察してもらったり、「知る・見る・カニさんザリガニさん」や「環境広場さっぽろ2018」では、アメリカザリガニなど札幌市内の外来種問題について知っていただくなど、多数の市民に普及啓発することができた。 夏期のさかなウォッチングは、親子で川に入り、実際に採集することにより、身近な水辺の生き物の説明をするとともに、外来種問題についても実体験として知っていただく機会となった。 8月に開催した「真駒内川ミニ水族館」は、夏休み期間中の自由研究の素材として、大変好評を得ることができた。サケフェスタは、地震のすぐあとのため開催が危ぶまれたが、直前に規模・内容を縮小しての開催を決定し、ホームページや屋外掲示板等で適切に周知することができた。来場者は例年よりは少なかったものの、1,200名を超える市民に楽しんでいただいた。 秋期のサケ観察会は、さけ科学館本館の休館中も河川で予定通り開催し、いずれも多数の参加者で大変賑わい、サケの生態や市内河川に遡上するサケの産卵環境等を広く普及することができた。 「サケ・タッチ・プール」は小さい子どもも気軽に参加できるイベントとして定着しており、今年度も多数の親子連れの参加があった。 札幌ワイルドサーモンプロジェクトと共催で開催した市民フォーラムには200名近い来場者があり、野生サケの重要性やサケが住みやすい河川環境作りなどを広く普及できた。</p>	<p><利用について> 一般の市民だけではなく、小学校や大学などに対する教育対応について重点的に取り組み、市内の淡水生物の普及啓発を実施したい。 1月からゴールデンウィークまで展示している「サケ稚魚の群泳」は、水槽で観察できる稚魚を放流することもあり、体験放流の参加者には特に好評であった。引き続きサケへの興味関心を高めるよう、より身近に感じてもらえるような効果的な展示を検討したい。 来館者への解説案内は、市内のサケや水辺の生き物を知ってもらう良い機会でもあるため、これからも積極的に実施する。 掲示物やホームページ等の情報は、利用者目線から随時新しい内容への更新に努める。 「真駒内川水辺の楽校」など、地域の団体と連携・協力して行う学習・イベント等には積極的に取り組んでいく。 博物館実習・職場体験とも、将来の人材を育てる大事な業務と考え、可能な限り受け入れたい。 今後も利用者目線から、素早い利用案内、対応を心がけ、サケを始め水辺の生物多様性保全についての普及活動に精力的に取り組んでいく。また、来館者が喜ぶような展示を心掛け、積極的に声掛けをし、気持ちよく見学できるように努めていく。</p> <p><教育普及について> 「環境広場さっぽろ2018」など、さけ科学館に来たことのない市民にも、さけ科学館のことや市内のサケ、淡水生物、外来種問題などについて知ってもらう機会を有効に活用していく。 さかなウォッチングは、親子で川に入り、実際に採集することにより、身近な水辺の生き物とふれあえる貴重な機会となっているが、このような実体験を通じて河川環境にも目を向けてもらえるよう、普及啓発を行っていく。 サケフェスタは今回、縮小開催となったが、次回は例年通りの規模で実施し、にぎやかなイベントを目指したい。 札幌ワイルドサーモンプロジェクトとも連携して、市内河川に遡上するサケについて広く普及し、小さい子どもでも参加できる内容のイベントを実施したいと考える。 市民フォーラムは、市民に分かりやすく豊平川のサケについて伝え、興味をもっていただけの内容を検討して開催したい。 各種イベントは、楽しく参加できる内容を工夫して実施していく。マスコミに積極的に情報を提供するなど、多くの方に情報発信して参加の機会を増やすことにも努めたい。 調査や教育などにおける大学等との連携・協働では、お互い足りない部分を補いながら、進めていきたいと考える。</p>

<施設管理>

全体に施設の老朽化が進んでいることから、日常管理に重点を置き、不具合の早期発見、迅速な処置に努めた。今年度も上水道の地中管部分の漏水や汚水管の水漏れ、汚水槽の満水警報の異常発報、自動ドアの不具合などがあったが、いずれも迅速かつ適切な対応を取ることができた。

9月の台風21号などの強風により、隣接する河川敷地のトウヒ・ポプラ等の大木の倒木に際しては、北海道建設管理部・真駒内公園と情報を共有し、素早く安全確保をすることができた。

胆振東部地震及びそれに伴う停電発生の際は、構内・各施設のほか飼育生物の状況等を迅速に確認し、必要な安全措置を図った上で、札幌市所管課と協議しながら随時対応を進めた結果、波及被害を出すことなく長時間停電を乗り切ることができた。

冬から早春にかけての時期は、融雪に伴い、園路上で圧雪された雪が氷状に固まる状況が多く見られたため、融雪剤や砂を撒いたり、氷割りを進めるなど、来館者の通路の安全確保に努めた。

<飼育管理>

サケ稚魚の飼育においては、今後も豊平川における野生サケの動向を調査・確認するため、稚魚全数に耳石温度標識を施した上で豊平川に放流した。稚魚の放流後は水槽に空きができないよう、速やかに展示の切り替えを実施した。

「知る見るカニさん・ザリガニさん」では、実際に札幌市内の安春川で増えている外来種アメリカザリガニの駆除を兼ねて、イベント使用の個体を採集した。その際は近隣の市民や子どもたちに積極的に声かけを行い、安春川の現状や外来種問題の普及啓発を行った。

地震の際は、停電と同時に非常用発電機が作動し、井戸ポンプが止まることなく稼働したため、サケ科魚類への給水は途切れず、被害は出なかった。しかし停電が長引き、発電機の燃料が足りなくなるおそれが出てきたため、地震当日の日中に発電機の燃料タンクへの給油を確保した結果、復電まで問題なく発電機を稼働させることができた。ポンプによる循環式濾過槽を用いて飼育しているさかな館の魚類は、停電により全水槽の濾過装置が停止したが、ポータブル発電機でエアレーションをすることにより、酸欠による斃死を防ぐことができた。また、停電が長引くと水質悪化の影響も考えられたため、井戸からの水をタンクに確保して、いつでも水替えができるよう準備した。

サケの採卵受精は、今年度から豊平川産オスサケを使用した「半野生サケの採卵」を一部実施した。この受精卵については、今後の親魚調査で識別できるよう、通常の耳石温度標識に加えてACL(アリザリン)標識を実施した。サケ受精卵は順調に育ち、浮上後は円形水槽で餌付けしたのち、1月29日からのサケ稚魚群泳展示に合わせて、来館者が見学できる地下観察室に移動した。

その他のサケ科魚類についても、魚種ごとに適時採卵に留意し、展示用種苗の自家確保に努めた。

標津サーモン科学館から、展示・再生産用のサケ科魚類種苗について、それぞれの希望する魚種の相互提供を行った。また、琵琶湖博物館からも依頼を受け、展示用のサケ科魚類を供与するなど、他館園との連携により飼育展示魚の適切な確保に努めた。

<施設管理について>

設備が破損した際は、早急に現状を確認し、来館者に及ぼす影響を最小限に留めるよう対応していく。

さけ科学館周辺の倒木など危険な状況を発見した際には、来館者だけでなく公園利用者の安全を考え、公園や北海道と情報を共有し、より良い施設管理を行っていく。飼育等の設備については古いものが多く、故障の頻度が上がっているため、スタッフ全員で不具合の前兆がないか、気をつけてみていくように努める。また、修繕に時間がかかる故障等の際は、スタッフ全員でどのような対応ができるか考え、対応していく。

今後も、来館者の安全を第一に考え、危険な箇所が無いように管理をし、不具合がある機器は適切に交換・更新し、良好な状態が保てるようにする。

<飼育管理について>

アメリカザリガニの採集の際は、ただ捕るだけでなく、場所・採集時間・採集方法を毎年同じやり方で実施することで、時間当たりの採集量の変化を調査し、増減の変化を見るようにしている。アメリカザリガニは、道の条例で再放流が禁止されているため終生飼育を行い、外来種の普及啓発イベント等の依頼があった際に活用していく。

普段から災害など非常事態時の対応をスタッフ全員で情報共有していたため、今回の台風・地震の際も混乱なく対応することができた。この経験を生かせるよう、スタッフ全員で情報を共有して対応していきたい。

サケやその他のサケ科魚類について、適時に採卵できるよう熟度識別をこまめに行い、健全な種苗の確保に努めた。増殖・飼育に関する新しい知見や技術の導入にも積極的に取り組んでいきたい。

豊平川の野生サケを優先的に保全する観点から、次年度も可能な限り豊平川産サケを使用した、半野生サケの採卵を実施したいと考える。

サケ稚魚の飼育管理においては、浮上のタイミングを適期に行えるよう注意し、放流まで順調に育つよう餌付けをしっかりと行い、人為的ミスがないよう担当スタッフだけでなく、スタッフ全員で気をつけて飼育をしていく。

サケ科魚類をはじめ、飼育生物に関しては他施設と連携をとり、お互いに協力しながら充実した飼育展示を目指したいと考える。

今後も来館者が気持ちよく見学できるように、スタッフ全員で気をつけて飼育管理をしていく。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>全般について要求水準を上回っており、安定した管理運営がされています。特に利用者からの高い満足度は丁寧な接遇・解説がなされているものと評価します。課題として、利用者が減少傾向にあるため、利用者のニーズの把握と広報の更なる工夫に努め、利用者増加を図っていただきたいです。</p>	<p>通常で可能な範囲で構わないので、施設の美観維持に努めてください。その他は上記の所管局評価を参照してください。</p>